

令和7年度収支決算報告書

俳人協会群馬県支部
(令和7年1月1日～令和7年12月31日)

収入の部		
項目	決算額	備考
繰越金	416,403	前年度より
会費	年会費82名吟行会費19名	261,000
収入合計	677,403	

支出の部		
項目	決算額	備考
印刷費	会報 総会資料 各種案内等	14,867
事務費	コピーほか	1,970
雑費	俳句カレンダー	14,700
通信費	会報郵送 総会等案内状郵送ほか	40,849
消耗品	宛名ラベルほか	4,762
事業費	秋の吟行会	196,364
支出合計		273,512
収入合計-支出合計		403,891 次年度へ繰り越し

令和8年1月 日

上記のとおりご報告いたします。

群馬県支部長 原田清正 ㊞ 会計 吉藤淳子 ㊞

【会計監査報告】

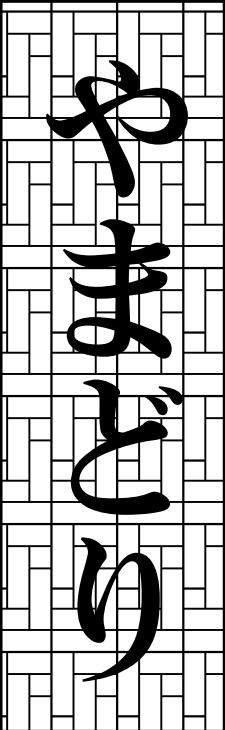
会計帳簿及び関係書類を監査した結果、適正かつ正確に処理していると認めました。

令和8年1月 日

監査 木下涼薰 ㊞
監査 吉澤章子 ㊞

新型インフルエンザ警報が発令されるなど新型コロナをはじめ深刻な感染症が心配な状況がつづいています。従いまして昨年同様集合型の総会は取り止め、会報「やまとり16号」に総会資料を掲載し報告させて頂きます。

令和8年度紙上総会 感染症予防対策



俳人協会
群馬県支部
☆
発行所
高崎市飯塚町737
TEL027-361-0870

令和8年度
紙上俳句大会開催

令和7年度群馬県支部俳句大会は感染拡大防止対策のため紙上俳句大会といたします。ご理解の上、皆様の奮ってのご参加をお願いいたします。

投句・3句(当季詠・未発表句)

締切・令和8年5月31日

投句料・無料

発表・会報「やまとり第17号」紙上

選者・未定

賞・上毛新聞社賞・支部長賞ほか

投句先・〒370-0069

高崎市飯塚町737原田方

俳人協会群馬県支部 あて

ハガキ裏面に俳句、氏名(ふりがな)住所、

電話番号を記載の上お申し込み下さい。

※一般の方の投句も可。

問い合わせ・TEL027-361-0870(原田)

会計報告(会計・吉藤淳子)	会計報告(会計・吉藤淳子)
別掲報告書の通り	別掲報告書の通り
事業報告(事務局長・武藤洋二)	事業報告(監査・木下涼薰 吉澤章子)
紙上総会(1月)	紙上総会(1月)
会報の発行(1月、7月)	会報の発行(1月、7月)
県支部俳句大会(会報紙上)	県支部俳句大会(会報紙上)
秋の吟行会(11月)	秋の吟行会(11月)

予算案(会計・吉藤淳子)	予算案(会計・吉藤淳子)
【収入の部】	【収入の部】
会費・80名×2,000円=160,000円	会費・80名×2,000円=160,000円
収入合計・583,391円	収入合計・583,391円
会計報告(会計・吉藤淳子)	会計報告(会計・吉藤淳子)

会計報告(会計・吉藤淳子)	会計報告(会計・吉藤淳子)
別掲報告書の通り	別掲報告書の通り
事業計画(事務局長・武藤洋二)	事業計画(事務局長・武藤洋二)
総会(紙上総会)	総会(紙上総会)
会報の発行(1月、7月)	会報の発行(1月、7月)
県支部俳句大会(会報紙上)	県支部俳句大会(会報紙上)
秋季吟行会(日時、場所未定)	秋季吟行会(日時、場所未定)
支部役員会(随時)	支部役員会(随時)
人事(支部長・原田清正)前年度通り	人事(支部長・原田清正)前年度通り
明けましておめでとうございます	明けましておめでとうございます
皆様のご健康をお祈り致します	皆様のご健康をお祈り致します
令和八年元旦	令和八年元旦
俳人協会群馬県支部役員一同	俳人協会群馬県支部役員一同

支出合計・270,000円
次年度へ繰越・313,391円

秋の吟行会作品

(あいうえお順)

堂守の紅葉掃きをり草箒
花鶴ちらちら木の葉時雨の宮の杜
落葉松の黄葉を四圍に電波塔
天明の糸いまなほ小六月
復顔図まじまじと見る神の留守
石蕗咲くや海原遠き小栗墓所
バス旅やトンネル出て紅葉山
残り菊語り継がれし大噴火
ぶな黄葉舞ふや青空染めるかに
黄葉且つ散る天明のきざはしに
緋のいろに観音堂の大楓
豆柿のたわわ嬬恋晴れ渡り
身に沁むや生死の分れ観音堂
墓碑語る非業の最後冬ざるる
散紅葉拾ひ句帳の栄とす
墓参ゆく小栗恋慕の落葉徑
小栗墓の供華ひとつなし冬夕焼
小栗つばき蓄少なく冬に入る
バス旅や鹿と目の合ふ峠道
木の葉雨鳥立つやうな音を立て
小栗墓処もみぢ裏葉に真美あり
飽くことのなきもみぢ狩りバス走る
駅舎跡の模型機関車枯すすき
正面の浅間山ともみぢ峠越え
新米のポン菓子給ふ旅はじめ
落葉松の落果をたぐるスニーカー

谷 真理子

志水 美穂

佐野 愛子

斎藤 博文

木下 涼薫

北村由美子

金井きくよ

大塚 洋二

大出 岩子

火の山は色変へず立つ紅葉晴
枯れそめし紫苑や鎌原観音堂
紅葉踏み家族四人の七五三
小栗公孟宗竹の春中に
デザートやランチに栗の渋皮煮
何事ぞ落葉松かさを見つけたる
天明の魂なぐさむるもみぢかな
落葉松の松ぼつくりや噴火あと
岩櫃山きりりと聳え風汎ゆる
小栗公の墓所へ誘ふ石蕗の花
冬ざるる鎌原に聞く和讃かな
空蝉の凍つるお堂を守り縋る
家苞のからまつぼくり吟行会
ぽん菓子を賜る秋のバス吟行
冬ざるる鎌原觀音残る階冬ぬくし
廻線の木造機関車枯木立
鎌原觀音残る階冬ぬくし
あと一段及ばぬ無念紅葉散る
逆賊は誉れなりけり冬木の芽
廻線の木造機関車枯木立
錦秋の山やまあふぐバスの旅
天明の噴火遺跡に小菊咲く
落葉松の黄葉に透ける空たかし
江戸湾へ浅間噴火やそぞろ寒
新米の爆弾あられ懷かしむ
鎌原観音堂柱にぽつり空蝉が
身にしむや堂守の説くやけ遺跡
天明の堂のきざはしもみづれり
今朝秋の噴煙上がる火山灰の道
身に入むや小栗家紋の浪立てり
いろは楓埋れし階に散りつのる
返り花浅間に傾ぐ供養塔

吉村 姉羽

吉藤 淳子

弥城勢津子

武藤 洋一

宮崎至夏子

真塩えいこ

深谷 征子

原田 清正

淺間北麓吟行記

北村由美子



群馬県支部秋の吟行会参加者

俳人協会創立65周年記念 全国俳句大会・一般の部ご案内

▽募集

二句一組 未発表作品・所定の用紙
又は「コピーしたもの」を使用 何組でも可

(注) 1月15日より俳人協会ホームページ

ジからダウンロードも可能

俳人協会員以外の一般の方も投句・大会

出席出来ます

▽投句料

一組につき千円 (小為替又は現金書留)

▽締切

令和8年4月15日 (当日消印有効)

▽送付先

〒169-8521 東京都新宿区百人町3-28-10 俳人協会「全国俳句大会」係

電話

03-3367-6621

▽選考者

井上弘美・今井聖・今瀬一博・小川 軽舟・小澤實・櫻未知子・角谷昌

▽選考者

子・加古宗也・片山由美子・岸本尚毅・小島健・坂本富尾・佐怒賀直美・白濱一

▽選考者

中原道夫・西村和子・西山睦・野中亮介・

▽選考者

羊・鈴木しげを・染谷秀雄・高田正子・

▽選考者

能村研三・福永法弘・藤田直子・藤本美

▽選考者

和子・松岡隆子・南うみを・三村純也・

▽選考者

村上喜代子・望月周・森田純一郎

▽大会

令和8年9月8日 (火) 正午開場・午後1時開会 (入場無料)

有楽町朝日ホール 東京都千代田区有楽町2-5-1

電話 03-3284-0131 有楽町マリオン11階 (JR有楽町駅中央口または銀座口・地下鉄銀座駅4出口・

地下鉄有楽町駅D-7a, D-7b出口) ※社会状況により開催の有無、収容人数等が変わることがあります。俳人協会にお問い合わせ下さい

▽俳人協会創立65周年記念大会につき、講演会を予定しております

▽賞

大会賞・秀逸賞・各選者の特選賞

☆大会終了後応募者に入選作品集をお送りします。(お一人5冊まで)

☆応募作品の訂正・取消しには応じられません

☆類句及び二重投句については、入選を取り消すことがあります

☆入賞作品は、俳人協会ホームページに掲載します

主催

公益社団法人 俳人協会

後援

朝日新聞社

四季の畔道

今年は昭和百年にあたる。そして、中村草田男の代表作「降る雪や明治は遠くなりにけり」を真似て、「〇〇〇〇〇昭和は遠くなりにけり」と遊んでみようと考え、「〇〇〇〇〇」に入る「季語を含む五」をさがすことに。季語を冬に限定し『第三版俳句歳時記冬の部 角川書店編』を開き、目次を時候の「冬」から順に、天文、地理、生活、と見ていく。つづいて、行事、動物、植物の最後の「冬萌」までひと通り目をとおす。

草田男は、久しぶりに訪れた母校の小学校の、校庭を眺めながらこの句を詠んで持った。さらにリュックに4つ目を付

だ。今年の「今年の漢字」は「熊」だった。毎年応募しており、当たたのは2度目。1つの漢字にいくつもの理由を挙げるケースが多いが、今回はそんな理屈抜きで「熊」。対抗馬と目された「米」には、米トランプの過激な言動や、米大リーグ大谷の活躍、米価高騰などを並べての応募があったようだ。13人が熊に殺されたとあっては、漢字は熊以外ないだろう。もし遭遇したらどうするか。「後ろを見せずには後ずさりして距離をとれ」。テレビでよく言われているが、熊に出くわしたときに、そんな悠長なことができるだろうか。撃退用のスプレーも売っている。唐辛子の成分が入っていて、これが熊の目などの粘膜を刺激するという。だが、霧状の薬品を熊が浴びればいいが、風向によっては人間が浴びかねない▼鈴は山に入るときの必需品だった。「だった」と書いたのは、効果に疑問符が付いたからである。コロナ前まではよく登山した。そのスタイルは膝までの長い毛糸の靴下に、膝下までのニッカーズポン。両ひざにゴム紐で鈴を括りつけ、もう1つを手

けたこともある。山小屋や休憩所など人の多い場所ではうるさいので、膝の鈴はズボンの裾に仕舞つた▼しかし、それでも万全ではなかった。上州武尊(2158m)を単独登山中、ブナ林の中で藪が異様に揺れているのに気付いた。風はなに。熊の臭いは「汗臭い」「発酵臭」「甘い香り」などと表現されることがあるが、とにかく強烈な獸の臭いだった。

藪の揺れは熊だと直感。地団駄を踏んで、鈴を鳴らし、手の鈴も大きく振った。野球場の応援席で見かけるウエーブのようにな、藪の揺れは大きな波となつて離れていった▼登山は諦めずにつづけた。だが、腰を下ろして休憩する気になれなかつた。気が付けばそれから2時間歩き放し。平日だったこともあり、途中で別の登山道と合流するまで、誰にも会わなかつた。腰を下ろして休憩する気になれなかつた。気を付けばそれから2時間歩き放し。平日だったこともあり、途中で別の登山道と合流するまで、誰にも会わなかつた。しかし、最近は人里に来て農作物を荒らしたり、人に危害を加えたりしている。本州と四国にいるのは月の輪熊。雑食だが人間を襲うことはないと言われてきた。人を襲うのはばつたりと鉢合わせした時と、子熊を守る時だけと言われてきた。唐辛子の成分が入っていて、これが熊の目などの粘膜を刺激するという。だが、霧状の薬品を熊が浴びればいいが、風向によっては人間が浴びかねない▼鈴は人間のいるところにやつて来る。餌があるからだ▼「熊の出た話わるいけど愉快」(宇田喜代子)。「熊を見し一度を何度でも話す」(正木ゆう子)。熊の怖さは実際に出てくわした人しか分からぬのだろう。伝聞ではどこかに誇張があるような気がしてしまつ。